

アンケート調査から見られる課題（案）

項目		目標に対する達成状況	小・中学生調査	小・中学生の保護者調査	5歳児童の保護者調査	小・中学校の教員調査	市民調査	課題（案）	
1 子どもの現状について	①学習に関すること	・アンケート調査結果における「全体的な授業の理解度」（「半分くらいわかる」「どちらかといえばわからない」「ほとんどわからない」）の割合（中学生で5ポイント減らす）は、26.0%で▲2.7ポイント。目標達成しないものの、上昇傾向（課題①）	・（問25）学校に対して、「わかりやすい授業をしてほしい」を望んでいる。（課題①②）  ・（問14）家での学習では、パソコンやタブレットなどを「使っていない」が高い。（課題①④）  ・（問19）授業時間以外の学習時間が、前回調査と比べ、長くなっている。（課題①）  ・（問13-2）塾（家庭教師を含む）や通信教材、またインターネットで授業を受ける理由について、「学校の授業だけでは足りないから」が高い。（課題①②④）	・（問18）小平市の学校教育で特に力を入れる必要があると思うことは、「学力向上策」が最も高い。（課題①）  前回調査と比較すると、「情報化や国際化、キャリア教育などを取り入れた特色ある教育」が増加。（課題⑤）	・（問4）お子さんに学校で身に付けてほしいと望むことは、「基礎的な学力」が最も高く、次いで「自分の考えを相手に伝える力」。（課題①）	・（問7）「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、『単元や授業の目標を明確にして、児童・生徒に見通しを持たせる』で“できている”が高いが、『それぞれの教科等における「見方・考え方」を働かせて学習に取り組ませている』などは“できていない”の割合が高い。（課題①②）  ・（問9）『十分な授業準備をする』『ICT機器を活用した教育』で“できていない”が高い。（課題④）  ・（問24）子どもにICTの活用によって身に付けさせたい力は、「情報モラル」が最も高く、次いで「情報収集力」、「プレゼンテーション力」。（課題⑤）		①基礎・基本の確かな定着と活用力の向上 ②指導方法の工夫改善 ③組織的かつ計画的な教育活動の質の向上 ④ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学びの充実 ⑤ICTを活用した子どもの可能性を拓く資質・能力の育成	
	②体の育成に関すること	・アンケート調査結果における「学校の授業以外で運動すること」（「あまり運動しない」「ほとんど運動しない」）の割合（小学校6年生と中学3年生で5ポイント減らす）は、44.0%で+10ポイント。目標達成せず、減少傾向（課題①）	・（問6）学校に行く前に朝ご飯を食べるかについて、前回調査と比較すると、小学校6年生、中学校1年生で「毎日食べる」が減少。（課題②）  ・（問15）学校の授業以外で運動するかについて、前回調査と比較すると、“運動する”が減少。（課題①）	・（問18）小平市の学校教育で特に力を入れる必要があることについて、前回調査と比較すると、「体力向上策」が増加。（課題①）					①運動習慣の定着と意欲の向上 ②基本的生活習慣の確立
	③心の育成に関すること	・アンケート調査結果における「自己評価・自分を大切な存在だと思う」（「あまり思わない」「思わない」）の割合（小学校6年生以上の「あまり思わない」「思わない」の割合（中学生で5ポイント））は、33.4%で+0.1ポイント。目標達成せず、減少傾向（課題⑥⑤）	・（問26-1）悩んでいることや、不安に思っていることは、前回調査と比較すると、小学校3年生で「悩みや不安はない」が増加。一方、中学校3年生では「将来のこと」「悩みや不安はない」が増加。（課題①）  ・（問27）自分について、『自分の意見を言える』については、前回調査と比較すると、“思う”が減少。『努力している』については、“思う”が減少。（課題①）  ・（問27）将来の夢や目標があるかについて、前回調査と比較すると、中学校1年生で“思う”の割合が減少。（課題②⑨）  ・（問28）どんな人になりたいかについて、前回調査と比較すると、「最後まであきらめずに取り組むことができる（困難なことにもくじけない）」が増加。一方、「運動・スポーツができる」、「ルールや決まりを守ることができる」が減少。（課題②）  ・（問29）将来、どのような仕事（業種）に就きたいかについて、学年が上がるにつれて「わからない」が増加。（課題②⑨）	・（問18）小平市の学校教育で特に力を入れる必要があると思うことは、「学力向上策」に次いで、「いじめ・不登校対策」が高い。（課題③④⑤）  ・（問20）特別支援教育の充実のために必要な取組は、「一人一人の教育的ニーズに合った教育の場と機会の確保」が最も高く、次いで「障がいに対する理解を深めるための学習の充実」、「子どもの実態に応じた相談体制の充実」。（課題⑦⑧）	・（問4）お子さんに学校で身に付けてほしいと望むことは、前回調査と比較すると、「自分を大切にする心」が増加。（課題⑥）  ・（問7）小平市の学校教育で特に力を入れる必要があると思うことは、「いじめ・不登校対策」が最も高い。（課題③④⑤）  ・（問5-1）お子さんが小学校に入学後に心配なことは、「友だちとの関係」が最も高く、前回調査と比較すると、「授業時間（授業を聞いていられるか）」が増加。（課題⑧）				①主体的に判断し適切に行動する力の育成 ②子どもたちが見通しをもって粘り強く取組む力の育成 ③子どもたちの思いやりや共生する心を育成 ④いじめ防止の対応に向けた取組 ⑤不登校児童・生徒への対応 ⑥自己肯定感の高揚 ⑦子ども一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じた学びの最適化 ⑧共に学ぶ環境や仕組みの充実 ⑨社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力の育成

項目	目標に対する達成状況	小・中学生調査	小・中学生の保護者調査	5歳児童の保護者調査	小・中学校の教員調査	市民調査	課題（案）
2 学校・教員のあり方及び教育環境について		<ul style="list-style-type: none"> <li>・(問 23) 担任の先生についてどう思うかについて、前回調査と比べ、『相談に乗ってくれる』、『みんなに平等に接してくれる』は、中学校 3 年生で“思う”が増加。(課題④)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(問 14) 学校の先生について、「授業力」「子どもへの愛情」「子どもを理解する力」「コミュニケーション能力」で“重視する”が高い。(課題①③)</li> <li>・(問 16) 学校に対して望むかについて、「教育に対する責任感や子どもに対する愛情を持って接すること」の割合が最も高い。(課題③④)</li> <li>・(問 17) 学校の教育環境で充実・改善してほしいものは、「主体的に学ぶための学習空間」、「防災・防犯に優れた施設の整備」、「ICT 機器を活用した教育を推進するための施設整備や情報機器の充実」。(課題⑦⑧)</li> <li>・(問 18) 小平市の学校教育で特に力を入れる必要があると思うこと、「学力向上策」、「いじめ・不登校対策」、「学校施設・設備の充実」。(課題⑦)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(問 6) 学校に対して望むことは、「教育に対する責任感や子どもに対する愛情を持って接すること」が最も高い。(課題③④)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(問 6) 子どもたちや保護者が学校に対して望むことは、「教育に対する責任感や子どもに対する愛情を持って接すること」と「教職員がわかりやすい授業を工夫すること」が最も高い。(課題③④)</li> <li>・(問 20) 学校では、教員としての資質向上のための O J T が十分行われているかについて、前回調査と比較すると、“行われている”が減少。(課題②)</li> <li>・(問 13－1) この 1 年間で、多忙感を感じたかについて、「とても感じた」と「ある程度感じた」をあわせた“感じた”の割合が 88.6%。(課題①④)</li> <li>・(問 10) 教職員が授業以外で優先すべきものは、「校内での児童・生徒の安全確保に関する指導」が最も高い。(課題⑤)</li> <li>・(問 13-2) 多忙感解消の有効策は、「調査や事務関係の提出書類の軽減」が最も高く、次に「校務分掌の見直しなど校務の効率化」。(課題⑥)</li> <li>・(問 14-1) 職務上、どのような悩みを持っているかについて、前回調査と比較すると、「職場の人間関係」が増加。(課題⑤⑥)</li> <li>・(問 15) 問題や課題に対して、組織的な対応を行っていると思うかについて、前回調査と比較すると、“行っている”が減少。(課題⑤⑥)</li> <li>・(問 18) 学校の教育環境で充実・改善してほしいものは、「ICT 機器を活用した教育を推進するための施設整備や情報機器の充実」、「教科の充実を図るための機能的な教室の整備」。(課題⑦⑧)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>①教職員の資質向上のための研修の充実</li> <li>②学校内の日常の教育活動での O J T による資質・能力の向上</li> <li>③学校・教員への信頼向上</li> <li>④子どもと向き合う環境づくり</li> <li>⑤コンプライアンス意識が醸成された職場環境の構築</li> <li>⑥教職員のメンタルヘルスの保持増進</li> <li>⑦学校施設の環境改善</li> <li>⑧個別最適な学びと協働的な学びを実現する環境整備</li> </ul>

項目	目標に対する達成状況	小・中学生調査	小・中学生の保護者調査	5歳児童の保護者調査	小・中学校の教員調査	市民調査	課題（案）
3 家庭・学校・地域のかかわり		<ul style="list-style-type: none"> <li>・（問 12-1）携帯電話やスマートフォンを所持している中で、使用するときのルールを家族と決めているかについて、他に比べ、中学校3年生で「決めていない」が高い。（課題①②）</li> <li>・（問 30）あなたは地域の人たちとどのように接しているかについて、学年別でみると、他に比べ、小学校3年生で「会ったときに声をかけたり話をしたりする」「こまったときやなやんでいるときに相談にのってもらおう」「スポーツや音楽などをおしえてもらおう」が、中学校3年生で「交流するつもりはない」が高い。（課題④⑤）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（問 5-3）お子さんの携帯電話やスマートフォンに、フィルタリング機能を付けているかについて、前回調査と比較すると、「付けている」が増加。（課題①②）</li> <li>・（問 5-4）使用にあたって、お子さんとのルールや約束を決めているかについて、「決めている」が 81.4%。（課題①②）</li> <li>・（問 21）小平市において、「地域に開かれた学校づくり」に向け、どのような取組が必要だと思うかについて、「ゲストティーチャーや部活動の指導者など、外部の人を学校に招く」が最も高い。（課題⑤）</li> <li>・（問 25）学校の教育活動や地域活動について、あなたが地域の方に協力してほしいことは、「登下校の見守り・声かけ」が最も高い。（課題⑥⑧）</li> <li>・（問 26-1）家庭教育で重視していることは、「あいさつや行儀、礼儀作法」と「規則正しい生活習慣」が最も高い。（課題①）</li> <li>・（問 26-2）ご家庭では、家庭教育で重視していることが、できていると思うかについて、“そう思う”が 78.2%。（課題①）</li> <li>・（問 24）普段、あなたは地域の子どもとどのように接しているかについて、「会ったときにあいさつをしている」が最も高く、次いで「会ったときに声をかけたり話をしたりしている」、「悪いことをしているところを見たときは注意をしている」。（課題④⑤）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（問 5-1）お子さんが小学校に入学した後に、心配なことについて、前回調査と比較すると、「授業時間（授業を聞いていられるか）」が増加。（課題①）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（問 16）入学時の児童・生徒の問題について、「基本的な生活習慣やしつけができていない」が最も高く、次いで「コミュニケーション力が不十分である」が、「落ち着きがない」。（課題①）</li> <li>・（問 25）地域に協力してほしいことは、「登下校の見守り・声かけ」が最も高い。（課題④⑤⑥⑧）</li> <li>・（問 26）小平市では、「地域に開かれた学校づくり」に向け、どのような取組が必要だと思うかについて、「ゲストティーチャーや部活動の指導者など、外部の人を学校に招く」が最も高い。（課題⑤⑥⑦）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（問 17）小平市では、「地域に開かれた学校づくり」に向け、どのような取組が必要だと思うかについて、「ゲストティーチャーや部活動の指導者など、外部の人を学校に招く」が最も高い。（課題⑥⑦）</li> <li>・（問 20-1）今後、地域の学校に対して協力してみたいと思うことは、「協力したいことはない」が最も高い。（課題④） 次いで「通学路における登下校時の見守り活動」、「自分が持つ知識・技能を教える」。（課題⑥⑧）</li> <li>・（問 21）学校、家庭、地域が連携・協力するためには何が必要だと思うかについて、「それぞれの情報を共有すること」が最も高い。（課題④）</li> </ul>	①家庭の教育力の向上 ②危険回避能力の育成と家庭・地域の意識の向上 ④連携・協働体制の維持・充実 ⑤人材の効果的な活用 ⑥地域とともにある学校づくり ⑦地域と学校の連携・協働に対する学校の理解促進 ⑧通学路を含めた学校内外の安全対策

項目	目標に対する達成状況	小・中学生調査	小・中学生の保護者調査	5歳児童の保護者調査	小・中学校の教員調査	市民調査	課題（案）
4 生涯学習に関すること	<ul style="list-style-type: none"><li>アンケート調査結果における「学習活動の成果の生かし方」（「ボランティアや地域の活動に生かしている」「他の人の学習や文化活動などの指導に生かしている」）の割合（5ポイント増やす）は、18.9%で▲5.7ポイント。減少傾向（課題①）</li><li>アンケート調査結果における「運動する頻度」（「していない」）の割合（5ポイント減らす）は、29.4%で▲11.5ポイント。減少傾向（課題⑤）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>（問18）学校以外で本を読むかについて、前回調査と比較すると、小学校6年生で“読む”が減少。（課題③）</li><li>（問15）学校の授業以外で運動するかについて、前回調査と比較すると、“運動する”が減少。（課題⑤）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>（問25）学校の教育活動や地域活動について、あなたが地域の方に協力してほしいことは、「登下校の見守り・声かけ」が最も高く、次いで「地域の伝統や文化、遊びの伝承」。（課題⑦⑧）</li></ul>		<ul style="list-style-type: none"><li>（問23）『学校図書館の充実』について、子どもへの効果を期待する割合が高い。（課題③④）</li><li>（問25）地域に協力してほしいことは、「登下校の見守り・声かけ」が最も高く、前回調査と比較すると、「授業の指導や内容面でのサポート」「行事などの手伝い」「登下校の見守り・声かけ」「花壇やグラウンド整備など」「地域の伝統や文化、遊びの伝承」が増加。（課題⑦⑧）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>（問7）生涯学習の必要性は、“感じる”が93.3%。（課題①）</li><li>（問8-1）この1年間に、生涯学習（学習活動）を行ったかについて、「行った」が66.9%、前回調査と比較すると増加。（課題①）</li><li>（問8-4）生涯学習（学習活動）で得た知識・技能・経験をどのように生かしているかについて、「自分の人生を豊かに」が最も高い。（課題①）</li><li>（問10）どのような条件が整えば、生涯学習（学習活動）を行うかについて、「気軽に参加できる、気に入った教室やイベントが開催されれば」が最も高い。（課題①）</li><li>（問11）生涯学習（学習活動）についての情報をどのような手段で得ているかについて、「市報」が最も高く、次いで「インターネット（小平市のHP以外）」。（課題①）</li><li>（問24）人々の生涯学習（学習活動）をより盛んにしていくために、小平市はどのようなことに力を入れるべきだと思うかについて、「市内の施設が連携して、学習の機会を増やす」が最も高い。（課題①）</li><li>（問10）どのような条件が整えば、生涯学習（学習活動）を行うかについて、「気軽に参加できる、気に入った教室やイベントが開催されれば」が最も高い。（課題②）</li><li>（問13）図書館の利用状況について、「利用していない」が最も高い。（課題②）</li><li>（問9）今後学習してみたいと思う分野は、「趣味的なもの（音楽・美術・華道・舞踊・書道・レクリエーション活動など）」最も高い。（課題⑥）</li><li>（問14）運動する頻度は、「していない」が最も高い。（課題⑤）</li><li>（問22）国史跡に指定された鈴木遺跡を知っているかについて、「知っている」が51.7%、「知らない」が46.6%。（課題⑦）</li><li>（問23）小平市の文化財について、「市の文化財が、子どもなど次世代に引き継がれることを望む」が最も高く、次に「市の貴重な財産であり、保護・PRを積極的に行うべきだ」。（課題⑦⑧）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>①学習活動の成果の地域への還元及び地域の人材育成</li><li>②情報拠点としての図書館の機能強化</li><li>③子どもの読書環境の整備</li><li>④学校と図書館の連携強化</li><li>⑤運動習慣の定着</li><li>⑥市民のニーズに応じたスポーツの推進</li><li>⑦市の伝統・文化の認知度と意識の向上</li><li>⑧市の伝統・文化の保存・活用</li></ul>